

(生活科・総合的な学習の時間)

「自分の思いや考えを豊かに表現し、共に学び合う子どもを育てる」

～生活科・総合的な学習の時間を通して

大阪市立 榎並小学校 岡崎 謙太郎

## 1. 研究の概要

本校では、研究主題「自分の思いや考えを豊かに表現し、共に学び合う子どもを育てる～生活科・総合的な学習の時間を通して～」を設定し、研究に取り組んできた。主題設定の理由として、本校の実態が次のようにあげられる。

- これまでの研究の成果もあり、課題に対して主体的に学習しようとしているが、自ら課題を見つけることがまだまだ苦手である。
- 学習活動を発展的に繰り返していく連続した学びにならず、課題解決が単発に終わることが多い。
- 友達と共に学ぶことが増えてきているが、そこから、自分の考えを深めることが苦手である。

そこで、今年度は次のような学習場面を、どの学年の実践にも取り入れるようにした。

- 主体的な学びを引き出す原点となるような体験活動
- 「何をどうやって学ぶのか」を意識した課題設定の場面
- 課題別グループによる調べ学習の場面
- 互いに学んだことを交流する場面
- 学びを共有した後の個人で学ぶ場面
- 自らの学習活動を振り返って次の学びにつなげる場面

このような学習過程を経る中で、学んだことを友達と共有し、自分の学びが深まるような学習の積み重ねが、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」につながり、また、このような学習は、育成すべき資質・能力の三つの柱の中の③学びに向かう力・人間性、つまり、学びを人生や実社会に生かそうとする力の育成につながると考える。

## 2. 実践の報告

研究主題にせまるために、研究の視点として、「共有と広い学びの工夫」を設定し、言語活動を通して、児童が①スパイラルな学習過程の中で②学びを共有し、自分の学びを広げられるように取り組んだ。以下、「主体的な学び」について3年生の実践を、「学びの共有と学びの広がり」について6年生の実践を報告する。

### 主体的な学び

3年生の学習では、「主体的な学び」となるよう、学びのスパイラルの中の、「何をどうやって学ぶのか」を意識した課題設定の場面を大切にしながら学習を進めた。

3年生になって、「総合的な学習」が始まり、初めての単元だったので、興味や関心はあるものの、総合的な学習で、何をどのように学習すればよいのかよくわからない子どもたちと、学び方を学ぶことも大切に学習を進めた。多くの学校でも実施されているように、国語科で「盲導犬の訓練」を学習することもあって、本校でも、3年生がアイマスク体験や車椅子体験を実施し、福祉について学習している。そういった体験学習を「ただ毎年3年生がやっているから経験する」というのではなく、福祉について学ぶ中で、子どもたちの「知りたい」「やってみたい」という自発的な考えといかに結びつけられるか、体験する必然性を持たせるかという点を大切にし、実社会・実生活と学びをつないだ。また、単元全体を通して、「自分たちにできることは何か」について考えることを大切にし、深い学びにつながった。

## 学びの共有と学びの広がり

6年生では、キャリア教育として、「働く」ということがどのようなものであるかを考える学習に取り組んだ。働いたことのない児童が、「働く」ということを身近に感じ、「働く」ことに対するイメージを豊かにできるよう、体験活動を交えた3段階の学びのスパイラルを設定した。個人で感じたり考えたりしたことを共有することで、学びがつながり、個人の視野、感性、価値観、考え方が広がったり、学びの共有によって新しい考えや感性、価値観に触れると、新しく疑問や興味をもつことができた。また、この疑問や興味、関心が個人の「学びの広がり」につながった。

「個人で考えたことや調べたことを整理する」際や「学びの共有」の際には、様々な思考ツールや道具を活用している。これまで学んできた思考ツールや活用できる道具の中から、児童が自分たちで適したものを選択し活用した。

学びのスパイラルの中で、個人の学びと共有を繰り返し、新たな視点や価値観、感覚に触れることで、「なぜ？」や「もっと知りたい」という思いが発生し、児童の学びが広がると考えた。そこで、今回の学習で大切にすることが「同じものに触れる」ということである。今回の学習の目標は、「働く」というイメージを広げることとなる。つまり、視点や価値観を広げることになる。同じものに触れたときに、「こんな見方があるんだ。」「こんな風に感じているんだね。」といったことを繰り返し体験させる中で、多様な視点や価値観を身につけ、「働く」ことについてのイメージを広げてほしいと考えた。「学びの共有」と「学びの広がり」を意識した活動を繰り返し行うことで、学習の深まりを児童が感じ取れるようになった。

### 3. 成果と課題

#### (1) 研究の成果

##### ○ スパイラルな学習過程

- ①体験活動や課題設定などの一連の学習活動のつながりを大切にすることにより、個人の課題を意識して、児童が自ら探求的に学べるようになった。
- ②学んだことを共有し、さらに個人の学びにつなげるということを繰り返し行うことで、学習後には、新たな見方や考え方を獲得するなど、児童の一人一人の考えが深まりより確かなものになった。
- ③学校アンケートの「考えを自分の言葉で書く」という項目の肯定的回答が93.7%という結果に表れた。

##### ○ 共有と学びを広げる工夫

- ①学んだことを記録した、カードやワークシート、短冊や付箋紙などを教室横などに掲示し、視覚的に分かりやすい「見える化」を実現した。それにより、考えが整理されたり、構造化されたりし、考えを共有することに役立った。
- ②児童が整理・分析する時や児童の深い思考を促すための板書をするために、思考ツールが効果的だった。
- ③話し合う方法では、ジグソー法やグループ毎に役割を与えた発表など、目的に合わせて話し合う方法を工夫したことにより、個人で考えたことに加えてさらに学びが広がった。
- ④ICT機器の活用が、情報や考えを共有することに役立った。

#### (2) 今後の課題

- 他の教科や各領域の学習においても自分の考えを持ち、友達に伝える活動を多く設定していく必要がある。
- 自分の考えを整理するために、筋道を立てて考える時間や、学びを振り返る時間を十分に確保する必要がある。
- 各学年の発達段階に応じたICTスキルの効果的な使用法を検討する必要がある。
- 学習内容に応じた地域の人材をさらに発掘・活用する必要がある。